

学校法人大阪キリスト教学院
大阪キリスト教短期大学
機関別評価結果

平成22年3月18日
財団法人短期大学基準協会

大阪キリスト教短期大学の概要

設置者	学校法人 大阪キリスト教学院
理事長名	有安 富雄
学長名	津村 春英
ALO	石黒 則年
開設年月日	昭和27年4月1日
所在地	大阪府大阪市阿倍野区丸山通1-3-61

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
幼児教育学科		170
国際教養学科		100
	合計	270

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	神学専攻	5
専攻科	幼児教育専攻	20
	合計	25

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

大阪キリスト教短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 22 年 3 月 18 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 20 年 6 月 17 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

100 年余の長きにわたって聖書的人間観に基づく人格教育を行っている。建学の精神の基盤となる聖書の言葉は、新約聖書ヨハネによる福音書 14 章 6 節「わたし（イエス・キリスト）は道であり、真理であり、命である」とされ、イエス・キリストに倣って、神と人に仕える真の人間の育成を目指すことを建学の精神とする。これを基に、聖書の言葉を基盤としつつ、宗教的な枠を越えた普遍的な精神を教育理念として、人と神から愛される「道」を示し、「真理」を追求する姿勢、あらゆる人々と共存する「命」を大切にす精神を、すべての教育・研究を貫く実質的・具体的「理念」として日々の教育に当たっている。

学生には学科ごとに毎週 1 回行われている礼拝（チャペル）に出席することが義務づけられ、学生は短い感想文や質問を記述する。共通基礎科目では、「聖書と現代人」が必修科目になっている。そこでは、あらゆる角度から、建学の精神の基盤である聖書と現代人のかかわりを学ばせている。

当該短期大学の最大の特色は、人と神から愛される「道」を示し、「真理」を追求する姿勢、あらゆる人々と共存する「命」を大切にすという、宗教的な枠を越えた普遍的な精神を培うという理念を基盤とする教育にある。その理念を、教職員が共有しつつ教育に当たっていることによって、入学後の途中脱落者はほんのわずかである。

卒業生は、幼児教育の現場や一般職種等で高い評価を受け、専門就職率も高い。また、社会活動にも積極的に取り組み、各種公開講座の開講、ボランティア活動への参加も活発であり、地域と密着した教育機関としての存在感がある。

過去 3 ヶ年間すべての教員に著作、論文、学会等の発表実績があり、研究活動が活発に行われている。

教育全般、管理面、財政面にも大きな問題はなく、健全な大学運営が行われている。

自己点検・評価の実施体制は確立され、ほとんどの教職員が携われる形での点検・評価活動が実施されている。また、ほかの短期大学との相互評価も実施され、法人全体としても積極的に改革改善に取り組んでいる。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 「人と神から愛される道」を示し、「真理を追求する姿勢」、「命を大切にす精神」を具体的な理念として、共通科目や定例の礼拝等により、建学の精神及び教育理念を大切にす宗教的情操を培う教育が具現化されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 学生が自主的に学習できるような取り組みがされており、学生の多様なニーズにこたえるカリキュラムが用意されている。特に、国際教養学科・国際教育コースにおいて学生のニーズにこたえ、幼稚園教諭 2 種免許状の取得への配慮がなされている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 授業科目担当者からの情報を得て、授業関連図書を置く書架を設け、開講科目に合わせて学期ごとに入れ替えている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 同窓会と別組織として卒業生友の会、ホームカミングデイ、コーラスグループの結成等により、卒業生との連携や懇親を図る取り組みが活発になってきており、今後更なる発展につながることを期待される。

評価領域Ⅵ 研究

- 一般の教員個人研究費に加え、「個人特別研究奨励費規約」による特別な支給制度も整備され、研究活動が奨励されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- ボランティア論、フィールド・スタディを通して、神と人に仕えるという建学の精神につながるボランティア活動が積極的に行われている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 専任教員の授業科目において、受講者数のばらつきがみられ、また不開講科目も多いので、その改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

キリスト教の神学校として創立された大阪キリスト教学院は、キリスト教精神に基づいた建学の精神が確立されている。短期大学も創設期からの伝統を受け継ぎ、イエス・キリストの教えを通じた人間教育を実施するため、教育理念・教育目的及び教育目標が具体的に示され、教育活動に生かされている。世俗的な学科を開設した後にも、宗教的な理念に基づいた教育を続けてきた。儀式等がキリスト教式であるのはもとより、学生は週1回の礼拝参加が義務づけられているほか、カリキュラムにも宗教的な色彩が反映されている。聖職者に限らず、一般の教職員にもキリスト教の倫理観に基づく教育目標が周知されている。そして、そのことが教育活動や学生支援に有機的に結びついており、成果をあげている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

すべての学科において、建学の精神や教育理念を反映し、「道」「真理」「命」の精神を学ぶ科目として「聖書と現代人」「フィールド・スタディ」「ボランティア論」が共通基礎科目の中に開講されている。前二者は、必修でもある。学科共通の基礎科目に加え、各専攻の教育目的を具現化する独自の教養科目もある。学生自身に学習意欲を持たせる教育内容を用意するため、各学科・専攻の特色を生かすカリキュラムが生まれ、専門教育として十分な内容を備えている。

また、資格取得を目的とした科目も設置され、全学的に指導が行われている。卒業研究でもある「ゼミナール」の果たす役割も、教育効果の点から高く評価できる。授業内容及び教育改善に対する取り組みも、学生による授業評価アンケートを活用し、

学科協議会・教授会を中心に積極的に行われている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員数、校地・校舎、教育機器・備品、図書の整備は充実しており、公開講座等による地域及び地方自治体など関係団体との結びつきも強く、教育の実施体制は十分機能していると考えられる。

学内には、授業改善委員会が設置され、授業に関する意見や苦情を取りあげ協議し、その内容を授業担当者へ伝えている。各学科とも、必要に応じて専任教員及び兼任教員間で意思疎通が図られており、共通意識、情報の共有、協力体制も構築されている。また、ゼミナールによる学生指導が行われ、当該短期大学の教育活動の根幹として意欲的に取り組まれている。学科専攻主任が指導力を発揮し、理事長・学院長・学長との協力体制及び責任体制も確立されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

学生は、教員の学習指導により意欲的に免許・資格の取得を目指しており、学生の単位修得率は適切である。このことにより、十分な教育が施されているものと判断される。また、就職率も良く、ほとんどの学生が専門職に就くなど、教育目標に対する達成度も高く、教育の効果は十分に発揮されている。特に、幼児教育学科卒業生に対する現場の評価は高い。

卒業生友の会などの卒業生による団体活動も活発であり、就職支援活動として「OG懇談会」が開かれるなど、当該短期大学と卒業生の強い連携も保たれている。特筆すべきは、ゼミナール担当教員、学生担当、学生生活支援室、カウンセラー等の連携によって退学者・休学者・留年者が少ない。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学前及び入学後には丁寧な指導を行い、スムーズな学生生活が送れるよう配慮されている。その後も、学生生活や学習上の支援も組織的に行われ、就職も専門職が高い。また、学生は、顧問教員の指導の下でクラブ活動を活発に行っている。礼拝をはじめとした宗教教育やゼミ担当教員・学生生活支援室等の指導により一体となって、学生生活全般を支援する体制が確立されている。

また、留学生受入制度・社会人受入制度・長期履修生制度・卒業生を含めた留学制度・科目等履修生制度等も整備され、多様な学生に対する支援も行われている。

評価領域Ⅵ 研究

過去 3 ヶ年間の研究業績をみると、全ての教員が著作、論文、学会等発表、国際的なものを含むその他の活動及び社会的活動をしており、成果をあげている。個人研究

費以外にも、「個人特別研究奨励費規約」もあり、恵まれている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

地域に開かれた短期大学として、昭和 54 年以降、地方自治体やボランティア団体との共催により、公開講座を開催してきた。さらに、正規授業でも、聴講生制度を活用し社会人を受け入れている。

また、学内には建学の精神を実践するために、「ボランティア・コーナー」を設置し、学生にも積極的に社会的活動に参加するよう奨励している。

キリスト教系ミッションスクールの特徴を生かし、アメリカの提携大学との教員や学生の交流も盛んである。これらのことから、地域社会との連携を積極的に行い、国際交流をも含めた社会的活動への取り組みが積極的に実施されている。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長は、定例理事会のほか、臨時理事会、状況に応じ常務理事会を召集し、学校法人運営業務に関する事項等を統括している。理事長が経営、学院長が学校法人、学校の教学を統括し、学長が短期大学の教学の長としてリーダーシップを発揮している。寄附行為・学則などの諸規程に基づいた大学運営は適切に行われている。また理事会と教授会は良好な関係にある。

評価領域Ⅸ 財務

過去 3 ヶ年の消費支出比率をみると短期大学部門、学校法人全体においても黒字であり、余裕資金も相当額を有しており、相当の基本金組み入れを行うなど、財務体質は健全に維持されている。

また、健全な財務内容を保つためにも、関係法令などを遵守し寄附行為・諸規程に従う姿勢を保っている。さらに、中・長期計画を作成し安全確実な資産運用と財務運営が行われている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価の重要性を十分に認識し、平成 6 年制定の自己点検・自己評価規程に基づき理事長・学院長・学長を長とする委員会が組織され、自己点検・評価活動の実施体制が確立している。ほとんどの教職員が携わる形で自己点検・自己評価が実施され、その報告書は平成 8 年度の第 1 巻以降随時刊行され、平成 17 年度以降は本協会の報告書作成マニュアルに沿った形で、毎年、刊行している。

また、キリスト教系ミッションスクールである他の短期大学等との相互評価を実施している。理事長以下の法人役員・教職員は、積極的な姿勢で改革・改善に臨んでいて、今後もプラン・ドゥ・チェック・アクション（PDCA）サイクルの確立を目指し、

意欲を持って取り組むことを期待する。